



2025年3月29日
かながわけんなんしふ
建交労神奈川県南支部
2025年春闘No.12
2024年度推進ニュース②0通算371号
発行責任者 小島 茂

原発ゼロへのカウントダウン in かわさき！ 原発回帰は許さない！草の根の運動広げて

神奈川県での桜の開花も間近に迫っていた快晴の3月23日（日）第14回原発ゼロへのカウントダウン in かわさき集会”が川崎市の中原平和公園で開催されました。

国は東京電力福島第一原発事故の後“原発の依存度を可能な限り低減する”との方針を維持してきましたが、石破自公政権は“原発を最大限活用する”と明記した第7次エネルギー基本計画を2月18日の閣議で決定し原発回帰へ大きく舵を切りました。

この政府の無謀な決定に反対し原発廃止を求める世論と運動が全国に広がるなかで開催された“かわさき集会”には800名が結集し「原発ゼロ、再生可能な自然エネルギー100%の社会実現」を求めて声を挙げ市民にアピールしました。県南支部では金崎書記長、佐藤執行委員、赤羽特執、合同分会の益山さん、河野さん、根井さん、和泉さん、大島さん、宮田さんの9名が参加しました。集会には能登半島地震と豪雨災害被災地の珠洲市から北野進さんがスペシャルゲストとして参加し、復旧・復興が進まない被災地の現状とともに2003年に珠洲市での原発建設を断念させた市民運動の経緯を報告しました。北野さんは原発建設予定地が能登半島地震で大規模な地殻変動があった場所であり、建設を阻止した意義の大きさを実感したと述べました（志賀原発は震災時に稼働していませんでした）。

スペシャルゲスト2人目の満田夏花さん（FoE JAPAN事務局長）は“原発がダメ”



“原発はいらない”とプラカードを掲げる集会参加者

な理由を科学的な根拠・データに基づいて明らかにしました。続いて各種市民運動の仲間の発言があり、昨年の集会に続いていわき市内で家族とともに福島第一原発事故に遭遇した鴨下美和さんが再び発言しました。

閉会挨拶は“かわさき集会”共同代表の三島弁護士が行ない、その後集会参加者は武蔵小杉駅前までのパレードに出発し原発ゼロを市民にアピールしました。

“かわさき集会”に参加した神奈川県南支部の仲間

神奈川県南支部は、大震災と豪雨災害からの復旧・復興が遅れている能登半島の現状に鑑みて建交労中央本部が昨年1月11日に呼びかけたカンパ活動を今年も継続しますのでご協力をお願いします。

建交労第2023-010号

2024年1月11日

建交労県本部委員長 殿

建交労支部委員長 殿

全日本建設交運一般労働組合(建交労)

中央執行委員長 角田 聖代



「令和6年能登半島地震」被災者支援カンパのよびかけ

全国で奮闘されている建交労のみなさんに呼びかけます。

本年1月1日の夕方4時過ぎに発生した令和6年能登半島地震（能登半島地震）は、M7.6・最大震度7を記録しました。地震発生直後には能登方面の日本海沿岸部で津波が襲いかかり、家屋などが水没し、人的被害を与えました。

石川県では死者202人、安否不明者323人、県内避難所約400ヶ所には約26,000人が身を寄せています。（1月9日現在）その内、珠洲市内、能登町、七尾市に居住する建交労石川県本部に結集する北陸ダンプ支部（1名）、北信越労職支部石川分会（41人）が家屋の全壊、半壊、一部損壊などの被害を受けています。石川分会の組合員1人が亡くなっています。石川県本部の石田直道委員長は分会員たちの状況把握の為に5日から現地入りをしています。

建交労は、被災された仲間と住民の皆さんに心からお見舞い申し上げるとともに今後できる限りの支援をしていくことにします。

1月5日石川県労連内に「支援対策本部」を設置し、全労連は1月10日に「令和6年能登半島地震・対策支援募金」のとりくみを開始しました。今後現地の状況を掌握したうえで、支援物資の搬入やボランティア派遣など具体的な支援活動を全国的にすすめる方針を確認しました。

建交労は、全労連の確認・提起を受けて「能登半島地震」被災者支援カンパのとりくみを10日に開催した常任執行委員会で確認し、全国の仲間にも協力を呼びかけます。各組織の積極的な対応をお願いします。

集約した救援カンパは、以下の金融機関の口座に振り込んでください。

お手数ですが、振り込みした組織は必ず、メールかFAXで別紙用紙にて随時お知らせ下さい。

以上

【振り込み先】

中央労働金庫新宿支店（普通）3731711
（名義）建交労中央本部

* 【郵便振替】

（口座番号）00180-3-25195
（名義）建交労

振込用紙に「震災カンパ」と記入してください

上記へ支援カンパを振り込んだ分会・班及び組合員は神奈川県南支部にご報告ください。